

JCL TEAM UKYOが『ミラノ～トリノ』に招待

日本チームが歴史あるクラシックレースへ



JCL TEAM UKYOのプロジェクトが新たな重要な展開を迎えました。
2025年3月19日に開催される『ミラノ～トリノ』への招待を受けました。

このイタリアのレースは世界最古のクラシックレースであり、毎年、世界トップレベルの選手たちが出場します。過去にはツール・ド・フランス通算 35勝のマーク・カヴェンディッシュや、2023年のジロ・デ・イタリア覇者プリモシエ・ログリッチといったスター選手たちが優勝しています。

今年のミラノ～トリノに招待されたコンチネンタルチームはわずか 2チーム。そのうちのひとつが JCL TEAM UKYOであり、もうひとつのチームはイタリアの MBH Bank Colpack Ballanです。この招待は、JCL TEAM UKYOのプロジェクトと、これまでの成果が世界のレース主催者から高く評価されていることを示しています。

歴史あるクラシックレース

ミラノ～トリノは、サイクリングファンにとって広く知られたレースです。第 1 回大会は1876年に開催され、今回で106回目の開催を迎えます。

この歴史あるレースでは、これまでに数々の名選手たちがこのレースを制しています。20世紀初頭のコスタンテ・ジラルデンゴ、1970年代のロジェ・ド・フラミンク、さらにジュゼッペ・サロンニ、フランチェスコ・モゼール、ジャンニ・ブーニョ、ローラン・ジャラベールなどがその名を刻んできました。また、2012年にはアルベルト・コンタドルが優勝し、その数週間後にブエルタ・ア・エスパーニャを制覇しています。

コース概要

3年連続でミラノ～トリノは Rho(ロー)をスタートし、174kmを走破したのち、スペルガの丘でフィニッシュを迎えます。スペルガは、アレハンドロ・バルベルデやヴィンチェンツォ・ニーバリといったレジェンドたちが勝利を取めた名所です。

スタート後、レースはマジェンタ、ノヴァーラ、ヴェルチェッリを通過し、最初の 150kmには登りはありません。しかし、勝負が動くのは終盤のトリノ＝サッシ付近から。ここから選手たちはスペルガへの最初の登坂(フィニッシュの600m手前で折り返し)を迎えます。

その後、リヴォドラを経由するテクニカルな下りを抜け、サン・マウロに戻ったのち、再び最終登坂へ。この最終5kmは2回繰り返され(最後の600mのみ1回)、トリノの科尔ソ・カーザーレからスペルガ聖堂への登りがスタート。平均勾配は9.1%、中盤には14%の急勾配区間があり、長い10%超の登りが続きます。最後の600mは8.2%の勾配が待ち受けます。



ミラノ〜トリノ 過去の優勝者

- 2024年 アルベルト・ベッティオール
- 2023年 アルヴィド・デ・クライン
- 2022年 マーク・カヴェンディッシュ
- 2021年 プリモシュ・ログリッチ
- 2020年 アルノー・デマール
- 2019年 マイケル・ウッズ
- 2018年 ティボー・ピノー
- 2017年 リゴベルト・ウラン
- 2016年 ミゲル・アンヘル・ロペス
- 2015年 ディエゴ・ローザ

出場チーム

- UCIワールドチーム(6チーム)
- EF Education – EasyPost
 - Intermarché – Wanty
 - Movistar Team
 - Team Picnic PostNL
 - UAE Team Emirates
 - XDS Astana Team

UCIプロチーム(11チーム)

- Equipo Kern Pharma
- Israel – Premier Tech
- Q36.5 Pro Cycling Team
- Solution Tech Vini Fantini
- Team Polti VisitMalta
- TotalEnergies
- Tudor Pro Cycling Team
- Unibet Tietema Rockets
- Uno-X Mobility
- VF Group BardianiCSF-Faizanè
- Wagner Bazin WB

UCIコンチネンタルチーム(2チーム)

- JCL TEAM UKYO
- MBH Bank Ballan CSB

